

# 芸術教育の再生をかけた 渾身の一冊、ここに完成。

宮脇理  
編

## 緑色の太陽

表現による学校新生のシナリオ

本書は、学校新生のシナリオを、〈表現〉の側から描こうとするものです。  
高村光太郎の象徴とも言える「緑色の太陽」を表題として掲げ、個々の「表現」が学校の  
新生という課題を前にして、果たしてどうこれに答えるのか？  
近著『4本足のニワトリ』に続いて、新たなシナリオを書き上げてみようとするものです。

国土社

四六判 230頁 1,900円＋税

国土社の美術教育書

〈物語〉の共振、交差する〈教育への視線〉

いま、表現活動を軸にして学校が生まれ変わる。

西暦2000年の幕開けとともに、教育実践・教育理論の新たな展望を切り拓くために本書は編まれた。編者は、『四本足のニワトリ』（既刊・1998年）の編者として、子どもの表現世界と現代社会の關係にメスを入れた宮脇 理。表現活動にベースを置く教育を展開することにより、学校教育の新たな可能性を追求した本書は、『四本足のニワトリ』の続編にあたるといってもよい。

『緑色の太陽—表現による学校新生のシナリオ』は、これまでの学校教育を日本近代に特有な啓蒙的システムとして、捉え直し、相対化し、批判する理論書であると同時に、日本の学校教育の未来像を描写する教育実践のためのシナリオでもある。いわば、学校教育の俯瞰図と道標をとともに提示することによって、閉塞状況に陥った学校像を転換するためのストラテジーが示されている。前書『四本足のニワトリ』が、市民・児童・表現をキーワードに日本社会に潜む芸術観の問題を「分析」したのに対して、『緑色の太陽—表現による学校新生のシナリオ』は、表現活動によって日本の学校教育を改善するための「戦略」を強調している。

書名の「緑色の太陽」は、日本の表現観の基底にある高村光太郎の評論を意識したものであるが、これを転じて、近代の表現観の総体をこの語に象徴させることにより、その意義と問題点をともに検討する姿勢を明らかにしたものである。

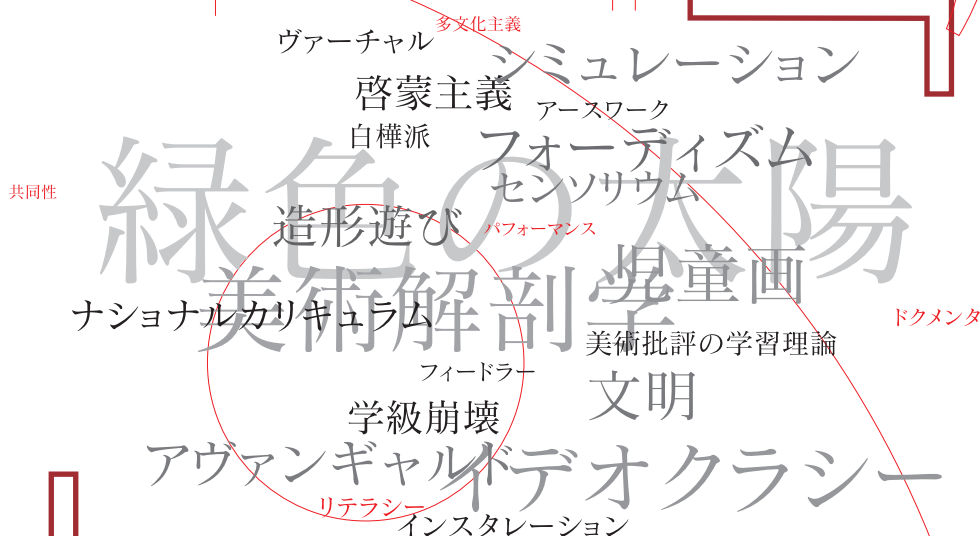
そして、副題の「表現による学校新生のシナリオ」という言葉に示されるように、章を進めるにつれて、学校教育を活性化させるための具体的な方法論に焦点が絞られていくという構成になっている。

流動的なだけに希望と不安が交差する現代日本の教育状況のなかで、あるべき教育の姿を追究し、教育実践のアクチュアルな感覚を保持しようとした『緑色の太陽—表現による学校新生のシナリオ』を多くの先生方に読んで頂けることを執筆者一同願ってやまない。

## 本書の内容

- 1 高村光太郎へのオマージュ  
宮脇 理 華東師範大学顧問教授 元筑波大学教授
- 2 近代日本における表現論の展開と美術教育  
山本朝彦 鳴門教育大学
- 3 日本と英国—芸術と教育の連続性を巡って  
直江俊雄 筑波大学
- 4 学校を文化のシェルターに  
三浦浩喜 福島大学
- 5 感覚の「総合」と「総合」的学習の接点  
居上真人 徳島県教育委員会学校教育課指導主事  
木村典之 大分大学付属中学校
- 6 メディウムとしての身体  
渡辺晃一 福島大学
- 7 起源への放浪—芸術教育の近代から  
永守基樹 和歌山大学
- 8 子どもの心はよみがえるのか？  
栗山裕至 佐賀大学
- 9 ヴァーチャル、ネットワーク、表現  
伊藤文彦 静岡大学
- 10 はたして、混在の中から  
学校新生のシナリオを創り出せたか  
宮脇 理 前出

【巻末に詳細な用語解説を掲載】



学校教育の再生を願うすべての人へ